

第56回大気環境学会年会(2015年9月15-17日、早稲田大学)
特別集会3(放射性物質動態分科会)

福島第一原子力発電所事故直後の大気中放射性物質動態、 炉内事象および初期被ばくの研究に関する 新たな進展とその横断的な考察

日 時 : 平成27年9月17日 (木) 9:00~12:00

会 場 : 早稲田大学西早稲田キャンパス56号館1階104教室 (K会場)

世話人 : 森口 祐一・鶴田 治雄 (大気環境学会放射性物質動態分科会員)

座 長 : 大原 利真 (国立環境研究所)

講 演 :

- (1)SPM計テープろ紙の分析による
原発事故直後の大気中の放射性セシウムの時空間分布
鶴田 治雄 (リモート・センシング技術センター)
- (2)原発事故により放出された放射性微粒子の物理化学的特徴
足立 光司 (気象研究所)
- (3)福島第一原子力発電所における事故時の炉内事象進展解析
内藤 正則 ((一財)エネルギー総合工学研究所)
- (4)福島県住民の初期内部被ばく線量推計の現状と課題
栗原 治 (放射線医学総合研究所)
- (5)原発事故により放出された大気中微粒子等の
ばく露評価とリスク評価のための学際研究
森口 祐一 (東京大学大学院工学系研究科)

費用 : 大気環境学会員ではない一般参加者は資料代500円を申し受けます。
(ただし、資料が不要な方は無料です)